



堤防の決壊などに備えた、消防団の積み土のう工法訓練

共に助けあい、地域を守る 山県市総合防災訓練

10月30日午前9時
東海地震発生
山県市震度6強――

これは、10月30日に美山中学校グラウンドを主会場にして市が主催した、防災訓練の想定です。

「いつ起こってもおかしくない」といわれる東海地震ですが、正確な予知は難しく、日ごろからの備えは被害を抑えるために欠かせません。

では、地震に対し、どう備えればよいのでしょうか。

震度7を二度記録し大きな被害を出した熊本地震では、建物の倒壊、火災、ライフライン施設の損壊など、さまざまな被害がありました。

市の防災訓練は、こうした大規模災害に対する防災体制を確認するために、市のほか関係機関や地域団体、民間企業などさまざまな団体が参加して行いました。

地震が発生したとき、一番大切なことは、まず自分の身を守ることです。そのための避難方法や、地震が落ち着いた後の復旧作業の体制など、いざというときに何をすべきかを知っておくことが、自らを守る「自助」、そして地域で助けあう「共助」につながり、災害への備えとなります。



1



2



3



5



8



9



4



6



7



10

大規模災害に備えて

私たちの地域を守るために――

1. 負傷者搬送

消防団と自主防災会が協力して倒壊家屋から住民を救出

2. ドローンの活用実演

災害時での活用を想定したドローンの飛行実演

3. 災害救助犬による救助

救助犬が倒壊家屋に取り残された要救助者を探索

4. エアーテント設置

消防本部が医療救護本部用のエアーテントを設置

5. 応急給食訓練

日赤山県市地区や自主防災会などが協力して避難所の非常食を準備

6. トリアージ

医師などによる重症症者の判別と応急救護

7. 自主防災会による初期消火

自主防災会による初期消火の実演

8. 災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンターの開設と受け付け体勢の整備

9. 情報収集訓練

防災無線を利用した市内の被害情報の収集と取りまとめ

10. 避難誘導訓練

避難経路を確保し被災者を美山中学校グラウンドへ誘導